

## 令和7年度十日町市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和8年1月23日（金） 午後1時30分～午後2時30分

2 会 場 十日町市役所 防災庁舎 大会議室

3 出席者 市長 関口 芳史  
教育長 渡辺 正範  
教育委員 浅田 公子  
教育委員 廣田 公男  
教育委員 川崎 正男  
教育委員 小堀 沙織

### 説明担当者

教育文化部長	滝沢 直子
教育総務課長	玉村 浩之
教育総務課長補佐	中川 直也
学校教育課長	渡邊 正文
学校教育課指導管理主事	長谷川 成生
学校教育課長補佐	小林 秀幸
生涯学習課長	樋口 具範
スポーツ振興課長	数藤 貴光
文化財課長補佐	笠井 洋祐

### 事務局

総務部長	樋口 正彰
企画政策課長	田辺 貴雄
企画政策課長補佐	村山 等
企画政策課企画政策係長	酒井 潤

4 議 題 (1) 十日町市教育大綱（案）  
(2) 十日町市の学校教育の現状と課題  
(3) その他

【配布資料】

次第

出席者名簿

座席表

資料 1-1 十日町市教育大綱の策定について

資料 1-2 十日町市教育大綱（案）

資料 2 十日町市の学校教育の現状と課題

別冊資料

樋口総務部長（開会）

大雪の中お集まりいただきありがとうございます。定刻前ではございますが、皆さんお揃いになりましたので、これより令和 7 年度十日町市総合教育会議を開催いたします。要綱に基づきまして、本会議は公開で行われます。会議全体の時間は、1 時間を予定しております。

それでは、開会の挨拶を関口市長からお願いいたします。

関口市長（開会挨拶）

本日は大雪の大変な状況の中、皆様からお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今年度の総合教育会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

令和 7 年度もいよいよ終盤に差しかかり、令和 8 年度に向けて、予算、人事、組織など調整をしております。また、今年度は、合併により新しい十日町市が誕生して 20 周年という大きな節目を迎えたわけであります。教育分野におきましては、馬場小学校の閉校により水沢小学校への統合がございましたし、また新しい魅力ある中学校づくりの検討を行うための”みんなの学校”プロジェクトが立ち上がりました。さらに、まつのやま学園での小中一貫教育小規模校全国サミットの開催もございましたし、田沢小学校の創立 150 周年記念式典などもありまして、まさに節目と新たなスタートが重なった年であったと思います。

また、今年度は、令和 8 年度からの今後 10 年間の市政運営上の羅針盤となります、第三次十日町市総合計画の策定の年度でございます。教育委員の皆様からは川崎委員に審議会においていただきまして、熱心にご審議いただいたことに感謝申し上げる次第でございます。

20 周年というこの節目に、これまでの取組の成果を踏まえ、理想とする未来を創造しながら、総合計画の策定を進めてきたところでございます。そして、当市が目指すまちの姿をこの度改めまして、新たに「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」と定めさせていただきました。目指すまちの姿の実現に向けまして、人づくりの基盤である教育の果たす役割は極めて重要であるという思いでございます。このため、子どもたちに最適な学びの環境を提供するための学区の再編をはじめ、ふるさとに誇りを持ち、未来を切り拓いていただける教育を推進していく所存でございます。

さて、本日の議題であります、1つ目は、十日町市教育大綱（案）についてでございます。教育大綱の作成にあたりましては、第三次十日町市総合計画での教育分野で掲げる政策・施策を基本としております。第三次総合計画の策定にあたりましては、教育分野においては様々な議論を重ねてきたわけでございます。その内容を基に作成した教育大綱案について、本日皆様と協議をさせていただきたいと思っております。

もう1つの議題は、十日町市の学校教育の現状と課題についてでございます。令和8年度からの新しい学校教育の重点を策定しなければなりません、この策定に向けまして、どのような点を重視すべきか、そして、どのような取組を行っていくべきかなど、ご意見を賜りたいと考えております。

先ほど申し上げました、「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」の実現に繋がる教育活動をしっかりと進めていきたいと思っております。教育委員の皆様には、今後も引き続き、教育行政の充実にお力添えを賜るようお願い申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。限られた時間ではありますが、よろしくお願いいたします。

樋口総務部長

ありがとうございました。

総合教育会議につきましては、市長が本会議を招集することとされております。つきましては、以降の進行について、関口市長からお願いしたいと思っております。

関口市長

はい、よろしくお願いいたします。それでは、進行を務めさせていただきます。

議題（1）「十日町市教育大綱（案）」について、事務局からの説明をお願いします。

企画政策課 田辺課長

議題（1）「十日町市教育大綱（案）」資料1-1に沿って説明を行う。（省略）

関口市長

それでは説明のあった内容について、委員の皆様からご意見を聞きたいと思っております。いかがでしょうか。

浅田委員

文言の確認ですが、1ページ目では「越後妻有文化ホール・中央公民館「段十ろう」」、2ページ目では「越後妻有文化ホール・十日町市中央公民館「段十ろう」」となっています。1ページ目では十日町市が抜けていますが、何か意図しているのでしょうか。

また、基本方針の一つ目の「ふるさとを愛し自立して社会で生きるこどもを育てるまち」とあります。今日の会議の資料ではなく、前回の定例教育委員会の資料で、学校教育の重点案の目指す学校教育として、「ふるさとに遊ぶ、共に生きる、自ら創る」というフレーズが

ありました。行政の目標と現場の先生方が考えられた目標を統一した方が良いのではと思いました。

企画政策課 田辺課長

「十日町市中央公民館」が正しい表記でありますので、1 ページ目を修正いたします。失礼いたしました。

学校教育課 渡邊課長

総合教育会議終了後の定例教育委員会でもお話させていただきますが、学校教育の重点の学校教育のめあては案の段階ですので、ご意見として承ります。教育委員会としましては、「ふるさとに遊ぶ、共に生きる、自ら創る」というめあてを提案させていただきました。

渡邊教育長

若干補足させていただきます。現在の十日町市の学校教育のめあては『「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きるこども」の育成』としており、教育大綱に掲げられている基本方針の表題の「ふるさとを愛し自立して社会で生きるこどもを育てるまち」という総合計画に近い形の表現です。新たに教育大綱を策定した上で、これに基づいて十日町市の学校教育の重点を策定する訳ではありますが、その過程として委員がおっしゃったようなことも想定しながら案の作成を進めていますので、教育大綱の表現も若干変更となる可能性もございしますが、基本的にはこの姿は変わらずに進めていくものと思っています。学校教育のめあてと表現を揃えなければいけないということではないと思っています。この意を体して学校教育のめあてを定めていきたいと思っています。

関口市長

他、いかがでしょうか。

廣田委員

7つの施策がありますが、「文化芸術活動の充実」と「スポーツの振興」について、市長にお伺いします。

文化芸術活動の充実については、伝統文化を子どもたちに繋いでもらうことが非常に重要だと思います。伝統文化は地域活性化にも繋がります。また、ふるさとを愛するという心の醸成という面でも大事なことだと思います。ただ、伝統文化については、それを担っている階層がとても高齢化しており、その方々だけに任せておくだけでは、なかなか子どもまで教えることができない状況であり、行政の力も必要ではないかと思っています。

もう1つのスポーツの振興ですが、クロスカントリースキーについては十日町市は非常に力を入れています。アルペンスキーについては人口も減っていますし、市内でもあちこちスキー場が閉鎖されているような状況ですので、スキーだけに限らず、雪国のスポーツ

全般についても、やはりふるさとを愛する心の育成にも繋がると思いますので、力を入れていただきたいと思っております。

関口市長

私からお答えする面と、教育委員会からお答えする面もあると思います。

廣田委員

予算を付けていただきたいという意味で市長にお伺いしました。

関口市長

新たな目指すまちの姿「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」としましたが、生まれたこの地の宿命と言いますか、そういったものをしっかりと肯定的に受け入れ、雪国文化や縄文文化、色んな数々の伝統文化などがあるわけですが、そうしたものをしっかりと伝えていくという意味で、伝統文化はまさに重要な要素だと思っています

担い手の高齢化が進んでいるというお話ですが、後継者が誕生している分野もあり、非常に嬉しく思っている活動などもあると思います。その方たちが堂々と活動を続けていただけるような支援など、私もしっかりと心して向かいたいと思っております。

スポーツについても、色んなスポーツがあって、それぞれ皆さんが楽しまれ、また、競技スポーツを頑張っている方もたくさんいらっしゃいます。そういった中でも先ほどの雪国に生まれた子どもたちという観点では、クロスカントリースキーやアルペンスキー、そういったところが重要になってくると思います。少しずつお客様の数が戻ってきているスキー場もありますし、また広く見渡し見ますと、雪に親しみたいという方が世界中から雪国においていただいているということもございますので、そうした観点からも雪のスポーツの楽しさ、またスキー場でのキャンプといった色んな工夫がみられていますので、しっかりと支援しなければと感じております。

また、競技の運営に献身的に関わっていただいている地域の皆様、またスキー協会やそれぞれの協会などの皆様もいらっしゃいますが、そうした方のご苦勞に報いられるようなことも必要だと思っています。また、中学校の部活動の新たな動きに対してもしっかりと予算付けしていきたいと考えてるところでございます。

川崎委員

この度、十日町市の目指すまちの姿に「雪と生きる。大地に遊ぶ。」という言葉が入りました。今ほどの廣田委員への市長からの回答の中にも少し関連したことがありますが、学校教育の中において、この「雪と生きる。大地に遊ぶ。」を受けて、この基本施策も考えられているところがあると思います。現段階で結構ですので、その具体的な例を少し教えていただけますでしょうか。

学校教育課 渡邊課長

現在、学校・家庭・地域が一体となったコミュニティスクールを推進しており、さらには、ふるさとの魅力を生かした探究的な学習を推進しようと考えております。先ほどお話しが出ましたように、学校でもクロスカントリースキーに親しんだり、また、地域をフィールドにして、地域の伝統や各行事を学んだりする機会がありますので、こうしたことを今後も学校教育として推進していきたいと考えております。

川崎委員

探究的な活動ということで話もあったわけですが、是非「生活科」の位置付けを大きくしていただきたいと思います。雪で遊ぶということが学習として保証されているのが生活科という教科でありますので、そういったところにも視野を広げていただきたいと思います。

先日、新潟日報を見ていましたら、三条高校の探究科の記事が載っておりまして、それが雪国での遊びを追求・探求し、情報を発信しているという記事を見ました。記事は高校ですが、小学校、中学校でも大いにできるものと思っておりますので、情報収集をよろしくお願いいたします。

廣田委員

学校では、幼保小や、小中一貫、不登校・いじめ、インクルーシブ教育、探究的な学習など、最近非常に複雑になっている中で、先生方は一生懸命頑張ってもらっています。しかし、学校でいくら頑張っても、子どもたちが増えるわけではなく、減る一方です。ひいては学校の統合などもあるわけです。そういう意味で、人口増加対策は究極の学校教育の対策であると言っている方もおります。市長にお伺いしますが、人口の増加策について、総合計画の中でこういったところに力を入れているのか、あるいは実際にこういった対策をやって成果が現れているのかなど、簡単に結構ですので教えてください。

関口市長

人口を増やそうという思いで頑張っていますが、減少の一途を辿っているわけでありませう。我々としては、少しでも十日町市で赤ちゃんを産んでいただく方を増やすのと、十日町市にお子さんも含めおいでいただきたいという、その両方の方針で対策を行っております。1つの例として、ふるさと回帰支援事業があります。市に移住していただける皆さんに対して、経済的な支援をしています。最大 300 万円をご支援するという県内トップの支援です。18 歳未満のお子さん 1 人につき 10 万円を加算するなどのメニューもあり、ファミリー層の移住に重点を置いています。

実績については、令和 2 年の制度創設以来ですが、令和 6 年度までの 5 年間で 747 人の方がこの制度を利用して十日町市に移住しています。うち 204 名が 18 歳未満のお子さんであり、年間で約 40 名の 18 未満のお子さんが市内に移住されています。

急速に少子化が進んでいますが、少しでも歯止めをかけるような一助になっていると思

います。この制度の前にも平成 26 年から別の事業として行っていましたが、その間と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響もあったと思いますが、この5年間の動きは倍増となっています。支援を充実させることで、このような成果に繋がっていることは事実であります。その他、特に力を入れていることは、移住支援窓口です。住まい、仕事、子育て環境などを総合的に1つの窓口で情報提供できる窓口を整備しており、活況を呈しています。さら頑張っていきたいと思っています。

小堺委員

「ふるさとを愛し」と基本方針に入っているのはどうしてだろうと思っていましたが、実際に子どもたちの学校に行きますと、その気持ちが育っていると感じています。自分の頃と比べるとのはちょっと違うかもしれませんが、学習参観の時などふるさとの良いところを見つけて、さらにそれをどう発展していったら人に伝わるのかというところまで、しっかり考えて自分の意見として発表している子どもたちの姿を見て、こういったところに載せていただくことで、十日町市というのがどういったところで、自分たちがどう愛していくべきかということを感じました。

また、我が家の近くにも地域おこし協力隊の方や移住されてくる方、芸術祭でたくさんの方が入ってくることによって、周りからこの地域がどう見られているかと感じるがあります。ここは良いところなんだと子どもたちが思ってくれて、自分たちもこういうところを良くしていこうと思ってくれていると嬉しいです。是非、市長にも子どもたちの瑞々しい感性とアイデアが広がるような発表会にも足を運んでいただき、見ていただけると嬉しいです。

関口市長

ありがとうございます。是非お邪魔したいと思います。

他の人から褒められることは良いことですよね。芸術祭でも経験しましたし、協力隊の皆さんも発信してくれていますから。また子どもたちがしっかり吸収して、ふるさと十日町市は良い所と実感してもらいたいですね。彼らが発信源になる良い流れが少しずつあると感じています。ありがとうございました。

それではお時間の関係もありますので、1つ目の議題はご意見を伺わせていただきましたので、以上とさせていただきます。

続いて、(2) 十日町市の学校教育の現状と課題について、事務局からの説明をお願いします。

学校教育課 渡邊課長

議題(2)「十日町市の学校教育の現状と課題」資料2に沿って説明を行う。(省略)

関口市長

ただいまの内容につきまして、皆様のご意見を聞きたいと思います。いかがでしょうか。

浅田委員

WE B Q Uを利用した居心地のよい学級づくりは是非進めていただきたいと思います。客観的にその学級の様子が把握できますし、何より風通しが良くて居心地がよいということは、自分がそのままの自分で居て良いということが認められたというクラスと思います。自分が思っていることが言える、言いたいことを言い合える雰囲気がとても大事であると思います。

また、私事ですが、近隣の小学校に読み聞かせに行っておりますが、今年度1、2、3年生が一クラスになって今までより多いと感じました。端っこのお子さんにまで声が届くか、絵がよく見えるかと気にしてまして、これが授業となったら先生方は大変なのではと思いました。是非、下学年への学習支援を手厚くお願いしたいと思います。

学校教育課 渡邊課長

居心地のよい学級づくりが令和4年度から始まりまして、令和5年度にはWE B Q Uを全学年に実施しております。今までやってきて、指導主事が各学校を回り、それぞれの学級の見組を見て、良いところを各学校に広げていく活動がありますので、今後も続けていきたいと考えております。

学習支援員について、今年度5名配置いたしました。委員おっしゃるように、低学年は手厚く見ていかないといけませんので、学習支援員の拡充を一層図っていききたいと考えております。

廣田委員

コミュニティスクールについて、私の個人的な意見を申し上げます。

直接子どもさんに指導ができたり、技術を持っている方だけではなく、一般の人でも良いと思っています。極端な例を申し上げますと、例えば、赤ちゃんを連れて学校に行った時、子どもさんが赤ちゃんを抱っこすると、とてもやさしい気持ちになるでしょうし、命は大切と改めて思うでしょう。また、廊下の窓から花壇で何も言わずに暑い中黙々と草取りをしているお年寄りを見て、子どもさんは何かを感じるはずです。コミュニティスクールの中で、地域の人が果たす役割はもっといっぱいあると思いますので、特殊な技術だけではなく多くの人々が関われるよう、間口を広げて働きかけをしていただきたいと思います。

資料に学校図書館の運営補助と書かれていますが、そうでなくても、学校の本が破けやすい状況ですので、直してくれるボランティアなど、簡単なことからできると思いますので、是非、推進していただくようお願いします。



川崎委員

今ほどの廣田委員の話と重なるところがありますが、地域学校協働活動を推進すると資料に記載がありますが、是非これを活性化していただきたいと思います。

では、これを誰が推進するのかと考えた時に、ここに記載されている学校支援地域コーディネーターが1人で地域学校協働活動を推進するようにこの資料では読み取れます。文部科学省では地域学校協働活動本部を立ち上げ、学校を核とした地域づくりも進めていきたいと思います。地域学校協働活動本部において社会教育も含めて活性化する必要があるとされている中に、色んな取組を地域学校協働活動の推進委員の方が本部とコミュニティスクールをつないで、地域も豊かに学校も豊かになっている状況を作っていただければ良いと思います。現在、移行も始まっているという話も聞いていますが、是非、積極的にこの体制を推進していただきたいと思います。

生涯学習課 樋口課長

地域学校協働活動本部についてであります。地域の方々と相談しながら進めていく必要があります。既にコミュニティスクールの中でこのような活動を実際にされている学校もあります。こうした状況を踏まえ、今後検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、1つ良い事例として、先ほど伝統芸能の後継者がいないというようなお話がありましたが、水沢小学校においては、伝統芸能保存会の方々が学校の授業の中で後継者を育てるための取組を行っています。こうした活動が各学校に広がっていくと良いと思いますので、検討を進めたいと思っております。

渡辺教育長

若干補足させていただきます。コミュニティスクール、そして地域学校協働活動は、同じようなニュアンスに捉えられる言葉と思っております。実際の活動も重なることはあると思います。これまで十日町市ではコミュニティスクールを重点的に取り組んできており、浸透もしています。ただし、地域学校協働活動あるいは本部も含めて、なかなか思うように進んでいないというご指摘と思っております。コミュニティスクールは学校が地域に働きかけ、学校活動の中に地域の力をいただいて推進し、子どもたちの育成に生かしていくことだと思いますし、地域学校協働活動につきましては、地域が主体になって学校と一緒に、まちをどうするかということを地域が主体に考え実践をすることで、その違いがあるわけです。今ほど担当課長が申し上げましたが、地域との話し合いの中で進めていく必要があります、しっかりと位置づけていきたいと思っております。

小堺委員

WEBQUについて、個人的なことですが、私の子どもがこれを行ったことで、前向きになって、先生方にも「よく頑張ったね」と褒めてもらえることがありました。グラフの1番左下に入るような子どもであり、何か発表しようとするすると周りの子どもから「えー違うよ」

や、笑われたりするようなことがあると、すごく気にして発表できなかったり、ずっと居心地の悪さみたいなものを感じていたと思いますが、この取組のおかげでこういった特性があるのかということ、たくさんの先生に共有していただけたことで、支援の幅も広がって、本人なりにどのようにやったら頑張れるのかが見えたことによって、頑張ることができたようです。このインクルーシブラインの中にいるお子さんのお家の方はあまり感じていないのかもしれませんが、私はすごく効果的だったなと思っていて、子どもが小学校の時、とても嬉しかったことです。居心地のよい学級が学習にどんな効果があるのかと思っていましたが、成績が良いわけではありませんが、良くない中でもすごく自分の頑張りが段階を経て分かるようになりましたので、こうした取組を進めていただくと頑張れる子どもたちが増えたり、学校を楽しいと言って、学ぶ楽しさを感じてくれる子どもたちが増えていくと思いますので、是非、進めていただけると嬉しいです。

関口市長

教育長が一番喜んでいるのではないのでしょうか。

他にいかがでしょうか。

川崎委員

市立学校の学力の状況と課題の箇所を質問させていただきます。スライドの10ページの箇所です。調査対象小学校6年生と中学校3年生で全国学力調査が行われています。国語は、小学校、中学校とも全国と同じかちょっと下がっているところですが、算数・数学が特に中学校では全国平均との差が激しくなっています。良く見てみますと、令和4年度の小学校6年生で受けた子どもが中学校に入って、令和7年度でまたこの全国学習調査の対象になって、令和7年度はすごく全国との差がついています。国語も同じような見方で見ても大きな違いは出てはいません。この状況をどう考えれば良いのでしょうか。

学校教育課 渡辺課長

1つ考えられるのは、中学校に上がる時に市外の中学校に行くことが理由として挙げられると思います。もう1つは、中3の問題を見ますとかなり思考力が要求されるものであります。その思考力を高めるために授業改善なども行っておりますが、まだまだその歩みが十分ではないということも挙げられると思います。今後、市の教育委員会としましては、探究的な学びを通して思考力を高めるような取組に努めてまいりたいと思っております。

川崎委員

ありがとうございました。思考力という話がありましたが、この思考力を要する問題で令和7年度の数学の正答率が全国では50%を下回っています。こんな問題があるのかと正直思いましたが、そういった難しい問題の中で十日町市の子どもたちは一生懸命取り組んだと思いますが、このような状況になっています。思考力を高めるということが非常に授業力

を要求されるものと思います。数学に限ったことではありませんが、それぞれの教科において、指導力向上を目指した研修が十分に行われるよう、市教委としても力を入れていただきたい。

学校教育課 渡辺課長

市内には若手の教職員が多くいますので、引き続き若手に対するサポート訪問を行っていきたいと考えております。

正答率が県では45%程度で決して高くはありません。先ほどお答えしましたように、探究的な学びを通して、思考力を高めていく取組を進めていかなければなりませんし、何より知識があってもうまく表せないことがありますので、思考の見える化ということも図っていきたいと考えております。

廣田委員

小学校1、2、3年生である下学年の学力は非常に下がっており、幼保小の連携が大事であると思います。小学校の校区と幼稚園保育園の区域は必ずしも一致しないわけですので、なかなか連携は難しいと思います。実際に行っているかもしれませんが、一度、市長部局と教育委員会の行政レベルで話し合ったりなど、そうしたことが早急に必要と思います。

教育文化部 滝沢部長

今年度から幼保小の担当指導主事を配置し、子育て支援課と保育園、また教育委員会の指導主事が一堂に会する機会を設け、研修やそれぞれの小学校区毎のカリキュラムを作り上げ、幼保小が同じイメージを持って子どもたちに接していく取組を始めたところです。徐々に成果が出てくるところを期待しています。

関口市長

ありがとうございました。それではこのことについては、以上とさせていただきます。次に議題では3として「その他」とありますが、会議終了の時刻が迫っております。特に皆様から無ければ、その他はなしとしてまとめに入りたいと思いますがいかがでしょうか。

～なし～

以上で議事を終了させていただきます。本当に貴重なご意見を沢山賜りまして、誠にありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

樋口総務部長

皆様、活発なご議論ありがとうございました。それでは、閉会のあいさつを渡辺教育長からお願いいたします。

渡辺教育長

皆様お疲れ様でございました。委員の皆様、そして市長ありがとうございました。総合教育会議と感じられるご意見であり、本当に活発な議論をしていただきました。ありがとうございます。冒頭の教育大綱の中でもありましたが、これから教育行政をどうするかという本当に根幹に関わる部分もまた皆様からご議論いただく形になろうと思います。その材料が揃ってきたと感じております。是非、引き続きよろしく願いいたします。

そして、十日町市の教育をめぐる環境は課題がたくさんありますが、外部から見ると評価して下さる動きもあります。1つには先ほどから話が出ております、小中一貫教育の取組については非常に全国的にも注目を集めておりますし、また、キャリア教育についてはアントレプレナーシップ教育も含めてですが、先進的な事例ということで、特に吉田小学校は文部科学大臣賞を受賞させていただいたというようなこともあります。そして、十日町小学校、ふれあいの丘支援学校、そして発達支援センターおひさまの3つの機能が一緒になった学校は、全国広しと言えども十日町市だけであります。この取組が非常に注目を集めておりまして、自治体視察、そして、国、教育機関から毎年のようにたくさんの視察においでになって、昨年は外国からも視察団がお越しになり、注目が続いているところでございます。こうした十日町市の強みをしっかりとベースとしてさらに伸ばしていくとともに、弱みも今回見ていただきましたが、そこをしっかりと強みに変えていくよう、不断の努力をする必要があると改めて感じた次第でございます。引き続きよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

樋口総務部長

それでは以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。どうもお疲れ様でした。